

自分の名前を書いた書と恵ちゃん（右）

恵ちゃんとの出会い

恵（けい）ちゃんに出会ったのは五月の連休に東京で開かれた「マリッジ・エンカウンター（ME）」の全国大会の時である。マリッジ・エンカウンターはスペインのカルボ神父が一九六一年から始めた運動で、一言で言えば「より良い結婚・家族の一致を目指す」ものである。今、先進国を中心に離婚が増大し、家庭崩壊も大きな問題になっている。そういう時代背景もあり、カトリック教会だけでなく、さまざまな宗教団体でもMEの運動方法が活用されている。日本でも各地で取り組まれ、山



口・島根地区カトリック教会でも一九八一年（S56）から始まり、私たち夫婦も最初から関わりを持った。二年に一度、MEの全国大会が開かれるが、今回、そこで恵ちゃんに初めて出会った。恵ちゃんは北海道の室蘭に住む田中さん夫婦の六人兄弟の末っ子で、今年二十歳の少女。彼女はダウン症である。ダウン症は染色体の異常によるもので、発達・成長障害が起こる。恵ちゃんも二十歳だが体格は小学高学年ぐらいで、一般的知能も健常者に比べて劣る。

五人の赤ちゃんを産んだ経験のある田中さんは恵ちゃんを初めて抱いた時、すぐ異常に気づき、ショックで泣き続けたという。しかし、ME運動の中で自分たちの間におられる神を確信し、神の恵みの中に生かされていることを学んだ田中さん夫婦は、障害を持った子どもも神からの恵みなのだと思い、赤ちゃんに「恵み」：恵という名前をつけた。

今回初めて会った恵ちゃんは実に明るく、物おじせず、生き生きと輝いているように見える。三日間のME大会中、恵ちゃんに引きつけられた。先天性の障害があるのに恵ちゃんを輝かせているのは何なのだろうか。田中さん夫婦は親が押しつけるのではなく、本人がやりたいというところに障害児という偏見を持たず、家族で積極的に取り組ませたという。

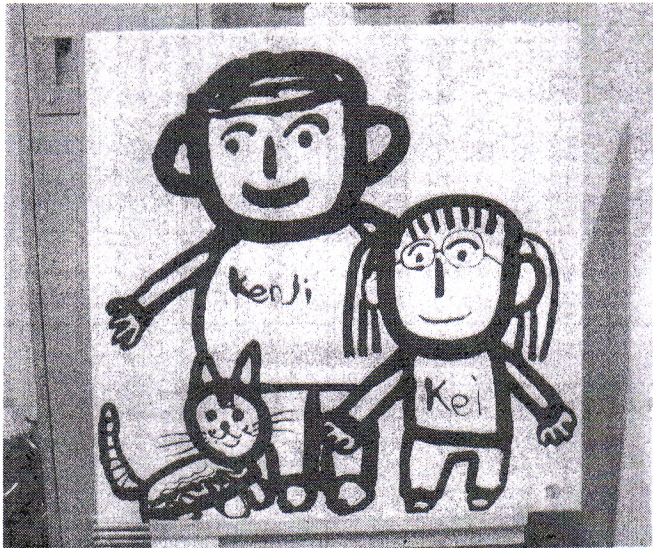
良い先生にも恵まれて普通の小学校に入學し、お母さんは三年間、恵ちゃんと学校に通ったと笑われる。恵ちゃんとは二人のお姉さんと同じようにするのが当然と思いき、英語も習い、習字や水泳もする。習字は一年に一度個展をするほどになり、水泳も千二百メートル泳げるといふ。今は札幌にあるハンディキャップを持った人を雇用している会社に勤めている。個人情報だけと言いつつも、自分の名刺を見せてくれた。両親はもちろん、家族の偏見のない愛情が、先天的な障害があっても、自信に満ちた、輝いて見える一人の人間に成長させたことに深い感動をおぼえた。神のみ旨にしたがつて、人生の旅とともに送りながら強固な家族を築き上げようというマリッジ・エンカウンター。神の恵みの中に自分たちが生かされているという確信が、本当に人を輝かした存在にしてくれるのだ。恵ちゃんとその家族に素晴らしいものを学ばせてもらった。（元山口放送取締役ラジオ局長）

中さん夫婦は、障害を持った子どもも神からの恵みなのだと思い、赤ちゃんに「恵み」：恵という名前をつけた。

今回初めて会った恵ちゃんは実に明るく、物おじせず、生き生きと輝いているように見える。

三日間のME大会中、恵ちゃんに引きつけられた。先天性の障害があるのに恵ちゃんを輝かせているのは何なのだろうか。

神のみ旨にしたがつて、人生の旅とともに送りながら強固な家族を築き上げようというマリッジ・エンカウンター。神の恵みの中に自分たちが生かされているという確信が、本当に人を輝かした存在にしてくれるのだ。



妹の花（猫）とお父さんを描く